

英語の本を読むときに、自分の単語力不足を痛感します。
英語で話す、書くときに、単語がうまく出てこなくて困惑します。
単語力がもっとあれば...、と思います。
本書は、「語源を用いてどのように自分の英単語を増やしていくか」を説明していく本です。

単語を覚えるときに「語源」を使うのは有効なやり方です。
でも、世間には英語の語源を使ったボキャビルについて、多くの
偏見と誤解があります。

語源の説明を聞いても、

「それが何の役に立つの？」

「語源なんて結局、ただのうんちくでしょ」

「だから結局、何の役にも立たないんだよ」

とすら思ってしまうのです。

けれども、語源には、誰でもどこかに「はまる」ものがあります。

そして、語源の使い方にはコツがあるのです。

そのコツを知らないと、語源は力を発揮しません。

たとえば、infer、offer、suffer、referといった単語は、共通の語源
-ferを中に持っている単語ですが、これらの単語を知らない場合に、
全部を並べて、まとめて一度に覚えるのは、必ずしも能率の
よい記憶法ではありません。

なぜ、このような覚え方が能率が悪いのか、どうすれば能率よく
単語を覚えられるのか——こういった問題も本書は扱っていきま
す（第9章参照）。

「語源」と聞くと、ビジネスや留学など、**実用英語には関係のない、おたくのうんちく話だ**と思っている方もいらっしゃいます。そう思っている方は「語源の底力」を十分に利用していません。

覚えるのがめんどくさい「語法」、「多義語」、さらには、どの単語を、**どういう場面で使うのが一番自然であるか**、といった問題に関わる、単語の持つ「語感」——こういったものは、「語源」と関係がある場合が多いのです。

語源を意識することで「語法」、「多義語」、「語感」が自然に身についていきます。

語源の効用は他にもあります。

英語って、アルファベットが並んでいるだけなので、似たような単語がちらちらして読みにくい、と思うことってありますよね。

differentとdifficult、あるいはdiseaseとdeceaseを間違えたり、いろんな単語を見間違えることがあります。

語源の勉強は、このような間違いを減らすのに役立ちます。

語源は単語力を根底から変えていきます。

英語を日本語に置き換えるだけの「借り物の単語力」を「ホンモノの単語力」に変えていきます。

でも、どうやってそれをやるの？——それが、この本のメインテーマです。

読者の方々の中には電子辞書を持っていらっしゃる方も多いでしょう。

電子辞書があれば、使いこなせる単語はぐんぐん増えていきます。もしも、電子辞書を持っているのに単語力が増えないのであれば、

それは電子辞書の使い方を知らないからです。はっきり言って、「**宝の持ち腐れ**」です。

本書では、辞書、電子辞書の選び方から、単語力が增える辞書の使い方までをお話します。手元に紙の辞書をお持ちならば、それを使ってもかまいません。

このようなやり方をマスターしていけば、単語力は毎日増えていきます。

英語には次のようなことわざがあるのをご存じですか。(もとは中国の春秋時代の思想家・老子の言葉を訳したものです)

Give a man a fish, and you feed him for a day. Teach him how to fish, and you feed him for a lifetime.
(人に魚を与えれば、一日の糧を与えることになる。釣り方を教えれば、一生の間の糧を与えることになるのだ)

この本には、「ホンモノの英語力」に必要な「ホンモノの単語力」を身につける方法論がつまっています。

津守 光太